

うぐいす  
鶯窯跡

**調査の経過** 鶯窯跡は、瀬戸市岩屋町・鳥原町に所在する。水野川流域に広がる品野盆地中央部から南東方向へ細長く伸びる谷状の奥部分に位置し、三方を標高 300 m前後の丘陵に囲まれ、南側の丘陵裾部に沿って、水野川の支流鳥原川が東から西へ流れている。鳥原川と狭小な沖積地を見下ろす標高 200 m～237 mの南側斜面に鶯窯跡は立地している。

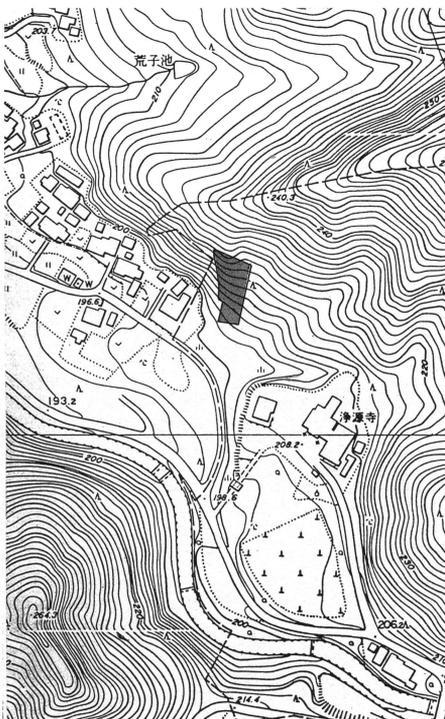
鶯窯跡は、これまでの遺跡分布調査などから14世紀から15世紀にかけての施釉陶器（古瀬戸後期）を焼成した窖窯で窯体は尾根直下に3基程度存在するものと考えられており、窯体より下方の斜面には灰原が斜面末端まで広範囲に広がっている。

**調査の概要** 本年度の調査は、建設省より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、900㎡を平成11年1月より3月にかけて実施した。

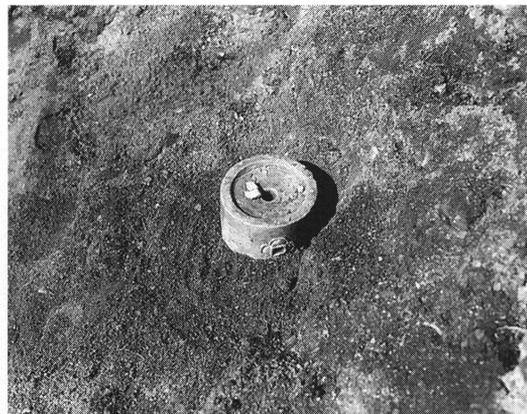
調査は窯体下方の斜面の灰原部分と斜面直下の平坦部分について実施した。本来ならば平面直角座標第Ⅶ系に準拠したグリットを設定すべきであるが、真北が斜面に対し約45度程西に振れていたことと、灰層の堆積状況を検討するためには斜面に沿ったグリットを設定する必要があることから平面直角座標系に準拠しないグリット設定となった。

調査区の上端の灰原は現地表下2 m40 cmを測るなど灰原は予想以上に厚く広く堆積していた。上段の灰原を概観すると西斜面は黒色灰層が、真中部分から東斜面部分は焼台を多く含んだ灰層が堆積している。灰原からは膨大な量の焼台とともに碗・皿・鉢・瓶・壺類・燭台などの器種の他に狛犬・陶製の茶臼などが出土した。出土遺物は古瀬戸後期の製

品が多いが、古瀬戸中期に遡るのではと思われる製品も出土している。  
(小澤一弘)



第1図 調査区位置図 (1:5,000)



灰原遺物出土状況 (茶臼)